

# 業務連絡

2022年8月4日 No. 1  
JR東海労新幹線関西地本  
業務部

2022年8月4日、支社会議室において「申」第29号について、組合側幹事と会社側幹事による業務委員会開催に向けた事前の打ち合わせを行いました。会社は、業務委員会を拒否しました。以下は協議の主なやり取りです。

## 「申」第29号「組合員の運転士再教育」に関する申し入れ(2022年6月23日)

1. 会社は、当該組合員に対して、丁寧な再教育を行って再試験を実施すること。

【会社回答】再教育は適切に行っており、再試験を行う考えはない。

2. フォロー期間中、当該組合員は福田指導科長に対して「自己の時間で構わないので、フォロー教育をしてほしい」と申し出たにもかかわらず、福田指導科長は「ダメだ」と言って申し出を拒否した。フォロー教育をする現場指導科の最高責任者の指導科長が何故拒否したのか明らかにすること。

【会社回答】フォローの申し入れを拒否した事実はない。尚、必要な教育を行っている。

以上

## 《 議論内容 》

会社：付議事項ではないので開催しない。

組合：納得できない。組合として問題があるから申し入れをしている。

会社：付議事項にあたらぬ申し入れに対して、開催することは出来ない。

組合：組合側は常に言っていることであるが、全ての申し入れに対して業務委員会をすべきである。今回の土職剥奪まで至って経緯など、お互いの委員が集まり業務委員会の中で議論すべきである。

会社：付議事項ではないので開催しない。

組合：業務委員会を開催しないことを確認する。

組合：再教育は適切に行ったとの回答であるが、「適切」とはどのような教育を行ったのか。

会社：再教育とは、知識とか技能を引き上げるための教育であり、再試験であれば知識確認、運転整備、応急処置、運転操縦がある。

組合：試験は実施しているが、再教育は行っていない。試験のことを再教育と言っているのか。

会社：再教育の中には色々あり、知識確認、運転整備、応急処置、運転操縦がある。今回は、この4項目において再教育を行う予定であった。

組合：これを再教育と言わない。これは試験である。

会社：勿論、試験もあるが知識の確認を含めた再教育である。なので、教育とは授業形式と言ったイメージがあるが、基本的には6回の試験と試験が終わった後のフォローを行って知識技能を行っている。

組合：教育とは、学校でも同じだが、いきなり試験をやった後に教育を行うのか。

会社：再教育とは、もう一度確認することである。

組合：試験と再教育とは別である。

会社：ご主張は分かるが、試験後の振り返りもやっている。

組合：試験の振り返りであり、教育ではない。

会社：それが教育である。自分が何が不足しているのか確認し理解して、もう一度自分で勉強することである。

組合：教育ではない。教育は別に設けるものである。対立を確認する。

組合：福田指導科長が「拒否した事実がない」とは本当なのか。

会社：そのように聞いています。対策の中で「こういう対策をやっていきます。」といった中で、「そういう対策は良いのではないか」とのやり取りはあったが「フォローをしてくれ」といった中で「それは駄目だ」とはいった話はない。対策の話の中で、ナビの対策は「駄目だ」といった話はしている。いずれにしても「フォローをしてくれ」といった中で「駄目だ」とは一切ない。

組合：そういう事実はない。福田科長が嘘ついているのではないのか。福田科長に直接聴いたのか。

会社：直接、事実を確認しています。

組合：それなら、福田科長が嘘ついていることになるな。その事実が残っている。出る場所に出れば、はっきりするけど。

会社：ちゅんとフォローはしていると聞いている。

組合：本人は自己の時間で「フォローをしてくれ」と言っているのに。

会社：「自己の時間」は理解できるが、それに対して管理者が立ち会ってやると言うのは中々、難しい。なので、必要により教育は行っている。

組合：拒否した事実がないことを確認する。拒否した事実はないことが嘘と分かれば「再教育をやり直すこと。」

以 上